

2020

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.74

LINEから銀行振込が可能に、
口座番号不明でもOK

～振込手数料は一律176円～

2019年、平成から令和に変わった年、IT業界にも数多くの出来事が生まれた。

ヤフーによるZOZOの買収、ヤフーとLINEの合併への動き、セブンPayの失敗、スマホ決済の〇〇Payへの各社参入、と結局ヤフー&ソフトバンクグループが中心となった動きが目立った一年でもあった。

スマホ決済の〇〇Payは、消費税増税による消費低迷策として採り入れられたキャッシュレス決済によるポイント還元もあいまい、各社の覇権争いが激化した。

フリマアプリの最大手メルカリの参入はじめ、テレビCMにも大金が投じられ、〇〇Payに関する販促企画を目にした日は無い位に激しさを増している。

フリマアプリ市場の勝者とも言えるメルカリは、巨大な個人取引市場を保有する事で、そのマーケット内で動くお金をメルPayとし、一般市場でも使えるという、いわば新しいお

金を生み出し、スマホ決済マーケットのシェア確保を目論んでいる。逆にスマホ決済マーケットから参入したソフトバンクグループのPayPayは、メルカリとは逆のアプローチでフリマアプリ市場にも殴り込みをかけている。PayPayは地方都市でも使用できるお店やサービスを開拓しており、スマホ決済競争では抜きん出てきている。つまりメルカリとは逆方向から、一般市場でのシェアの高さを武器にPayPayにチャージしているポイントでフリマアプリ市場の決済が行える試みに挑戦している。出品数では圧倒的にメルカリが優勢であるが、使える一般市場でのお店やサービスの面では圧倒的にPayPayが押さえている。

いずれにしてもスマホがお財布代わりになることが加速した2019年であったと言える。さらに年末に近づく時期に、発表されたのはLINE Payによる銀行振込可能というビッグニュースである。

これまでも同じアプリを使用している同士でのポイントによる送金などはあったが、スマホアプリに関係なく、普通の銀行口座への振込を可能とした。さらに振込先の相手の口座番号が不明であっても振込が可能だという。この手数料が金額の多少にかかわらず、一律176円となっている。スマホ決済が浸透したとしても、相変わらずお金の管理は銀行が大勢を占めている。その牙城にスマホが食い込んだとも言えるのだ。

【参照】

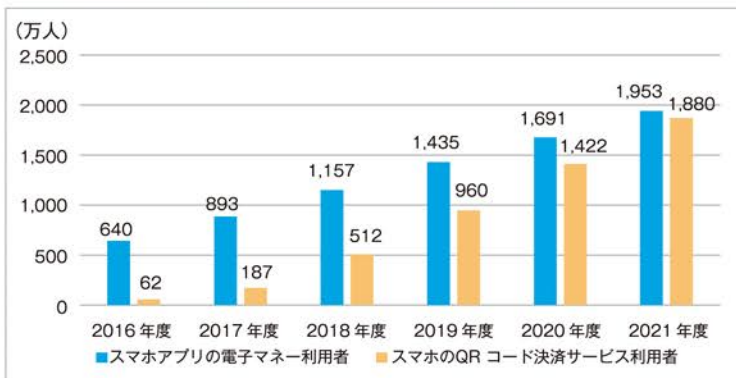
【LINE Pay】銀行振込サービスを開始

<https://linecorp.com/ja/pr/news/ja/2019/3011>

LINE Payから銀行振込が可能に、手数料は1回あたり176円

<https://jp.techcrunch.com/2019/12/09/line-pay-bank-transfer/>

スマホによるキャッシュレス決済サービス利用者数予測



※1カ月に1回以上利用するアクティブユーザー数 (ICT総研予測)

ICT総研 2019年モバイルキャッシュレス決済の市場動向調査より



美楽からの一言

2020年にはYahoo!とLINEの合併が検討されている。当然ながらPayPayとLINE Payが一緒になる可能性もある。スマホによる金融支配がますます進むと思われる。